

福島県 教育新聞

発行人 福島県教職員組合
 発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
 [定価一部 20円]
 編集・責任者 角田 政志
 e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
 http://www.f-t-u.or.jp
 (この購読料は組合費に含まれています。)

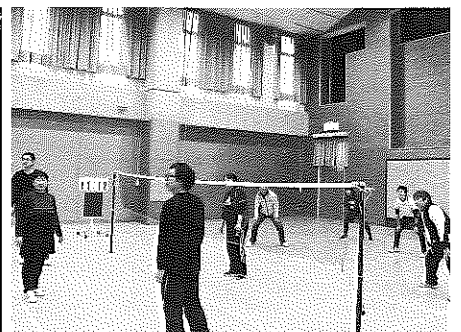
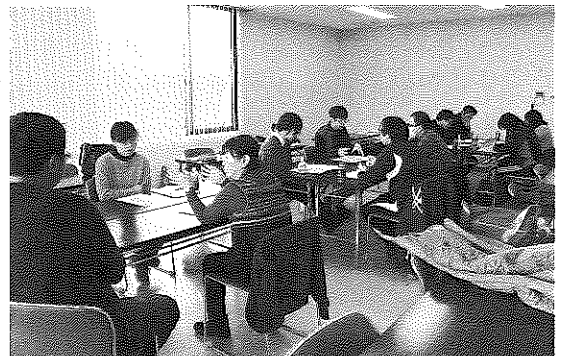
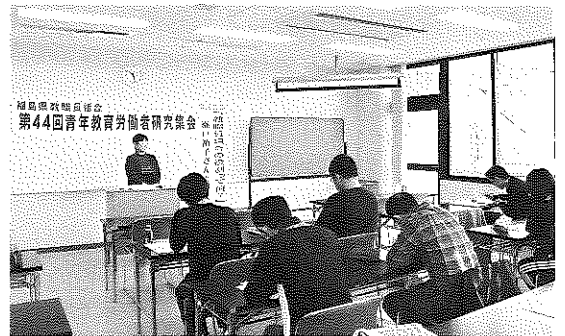
第44回福島県教組青年教育労働者研究集会

青年部、学習とスポーツレクを通して 組合の理解と交流を深める!

12月3日(日)、郡山市青少年会館で第44回福島県教組青年教育労働者研究集会が開催されました。

午前中の学習会では、元県教組書記次長の瀬戸禎子さん(福島支部副支部長)より「教職員組合の役割って何?」というテーマで講話を受けました。「組合って何だろう?」「組合ってどんな組織だろう?」「自分たちの生活にどんな関わりがあるのだろうか?」など問いかけに答える形で具体的な説明がありました。忙しい毎日だが、時間を見つけて仲間と不満や悩みを話し合いつながりをもつことの大切さや、教職員の生活の安定と向上に向けて職場の不満から見えてくる課題を解決し要求を実現していくことの必要性を学ぶことができました。また、分散会では、職場での悩みや疑問などについて本音で話し合われ、これからの組合活動に参考となる貴重な時間を過ごしました。

午後からは、みんなでからだを動かし、交流を深めるためスポーツレクを行いました。内容は、ドッジビー、ポッチャ、ソフトバレーボールの3種目を行いました。特に、最初に行われたドッジビーでは、ウォーミングアップのつもりでしたが、まさかの大白熱で息が上がるほど、夢中で取り組むことができました。やはり、みんなで行うスポーツは楽しく、からだを動かしながらの交流は、新たなつながりをつくることができました。終始笑顔で過ごせたスポーツレクは大成功であり、これからの青年部の活動をつくっていくために団結を図ることができました。



【放射線教育実践レポート】

**小学校におけるシイタケ栽培、ダイズ栽培、味噌造りの実践
—放射線と向き合いながら食べる学習を進める—**

福島県 大沼郡三島町立三島小学校 佐藤 方信

放射線教育をどう進めていくのか、低線量被曝の恐ろしさは、内部被ばくにあります。子どもたちには1年生から放射線の危険性をしっかり教えていこう、保護者と一っしょに実践していこうと考えました。

4月の保護者会や家庭訪問を通して放射線教育を一っしょに考えていきたいと提案しました。

そういった中、福島第一原発からある程度の距離を置いた会津地方で、積極的に放射線から子どもたちを守ろうとする取り組みは意義深いと考えました。そして、そのことを学級だよりで共有し、また、みそ造り、試食会に保護者や地域の人たちを巻き込んで行くこともまた重要だと思いました。日本の食の文化が放射線被害から子どもたちを守っていきます。もう一步進んで言うと、「手間をかける」ことが放射線を（「移染」ではあるが）子どもたちから直接遠ざけることに役立つし、子どもの免疫力の向上や生物学的半減期の助長にもつながっていく発酵食品の有効性に気付かせることにつながっていきます。しかし、子どもたちには、そのことはまだよく意識されていません。子どもたちは、



- ・「自分でとったシイタケだからおいしく食べたいと思います。」
- ・「みそ造りは楽しかった。またやりたいです。」
- ・「放射線は体に悪いことが分かりました。」との感想が出ました。

そして、放射線教育についてさらに学習を進めていく中で、放射線は体に確実に害を及ぼすけれど、抵抗力をつけたり少しでも放射線を排出していったりするためには、健康な生活、とりわけ食生活を大切にしていこうとする取り組みなどにふれることができました。そして、特に日本の食材が子どもたちの体にととてもよい影響をもたらすことを知り、子どもたちとシイタケ栽培のこと、味噌造りをしていくことなどを柱にして実践に取り組みました。

子どもたちや保護者の反応がよかったこともあり、この実践を教育課程にのせていくことが重要だと考えています。

今年度は、ダイズの栽培と森林学習を生活科の学習の中に入れてきました。生活科の学習の中心には、誕生の学習も入れています。これだけやって時間は足りなくないのか？やはり無駄だと思うものは削減していかなければなりません。要するに、子どもたちの様子を見ながら、何が子どもたちに必要なのかを考え、工夫していけばかなり時間は作るができると思います。

小さな実践こそが、子どもたちを育て、学校を動かしていくこと、地域を動かしていくことに確信を持ち、大胆に、緻密に作戦を練っていこうと思います。



中教審が考える「働き方改革」の内容とは？

11月28日、中教審特別部会が開催されました。今回で8回目の審議では、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中間まとめ）案」が示されました。長時間勤務を生み出す原因ともなっている「給特法」について議論をすすめていく必要性が記載されるなど、これまでのとりくみの成果は一定ありましたが、まとめ案では「引き続き議論を進める必要がある」との表現にとどまっており、抜本的な対策には踏み込んでいません。

記載している主な内容は、次の通りです。

～中教審特別部会 中間まとめ案 より～

- ① 文科省に勤務時間の上限規制の目安を盛り込んだガイドラインの策定を求める。
- ② これまで学校と教員が担ってきた14の業務を整理した。

〈学校以外が担うべき業務〉

- 登下校の対応 ○給食費などの学校徴収金の徴収、管理 ○地域ボランティアとの連絡、調整
- 放課後から夜間の見回りや児童生徒が補導された時の対応

〈負担を軽減すべき業務〉

- 調査、統計への回答 ○児童生徒の休み時間の対応 ○校内清掃 ○部活動 ○給食時の対応
- 授業準備 ○学習評価や成績処理 ○学校行事などの準備、運営 ○進路指導
- 支援が必要な児童生徒や家庭への対応

- ③ 給特法については「引き続き議論する。」という記載になっている。

なお、12月末にこの内容をもとにした成案が出される予定です。この中間まとめが、実効性のあるものとなるのか注視しながら、今後の運動を進めていかなければなりません。



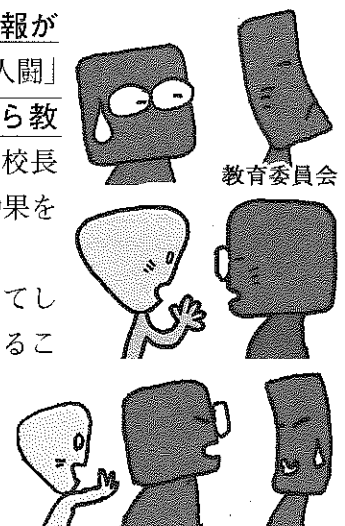
「分会人闘」というと校長は「個人のことだから」「人事は希望ではないから」と言って難色を示すかもしれません。「人事異動は最大の勤務労働条件の変更」です。県教組は「分会人闘」を基本単位として、分会・支部・本部が連携して最重要な運動と位置づけ、人事に取り組んでいます。

パート2 トラブル回避のために

毎年、人事で大きなトラブルの原因となっているのが、人事対象者の情報が校長から教育委員会にきちんと伝わっていない、ということです。「分会人闘」の最大のポイントは、困難を抱えている人事対象組合員の情報が、校長から教育委員会に正確に伝わっているかの個別チェックにあります。管理側（校長から教育委員会）と組合からの情報が一致したときに、人事闘争は最大の効果を発揮します。

人事は機会を逸すると、問大を解消するのが加速度的に困難な状況になってしまいます。（当事者だけではなく、他の異動者との関連の中で進められていることをお忘れなく）

人事の「入り口」である、「分会での対応」を確実に行ってください。情報がきちんと伝わるように、校長と対立するのではなく、校長を応援するような姿勢で臨むことも必要です。



福島発：核廃絶ダブル署名にご協力下さい!

①「東京電力福島第二原子力発電所の即時廃炉を求める署名」

②「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」

原発震災から7回目の3月を迎えようとしています。未だ、避難を強いられている人が大勢いる中、国や東電は今も廃炉への態度を明らかにしていません!! 一人一人の声で東京電力福島第二原子力発電所の廃炉を実現させましょう!!

また、世界で唯一核兵器によって甚大な被害を受けたヒロシマ・ナガサキの事を忘れてはなりません。現在、平均年齢80歳を超えた被爆者達は、「生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい」と強く願っています。核兵器のない平和な世界を実現するため、署名のご協力をお願いいたします!!

実施期間 1月26日まで

専門部県教委交渉日程決定!

各専門部からの要求を実現しよう!

現場からの参加をお願いします。

12月26日(火)

福島市 自治会館 8F

専門部	交渉時間
青年部	8:50~9:30
栄養教職員部	9:40~10:20
養護教員部	10:30~11:10
障がい児教育部	11:20~12:00
事務職員部	13:00~13:50
女性部	14:00~14:50

みんなで楽しく滑ろう!

スキー交流会

1. とき 2018年1月13日(土)~14日(日)

2. ところ 箕輪スキー場

今年度も事務職員部、青年部、福島支部合同開催です!それぞれの部より各支部へチラシを案内しております!

福島県民教協

「2018冬の集会」

第64回福島県民間教育研究団体協議会 合同研究集会

研究集会テーマ

「教育の情勢をとらえながら、
子どもの側に立つ教育実践をつくろう!
~憲法を土台として~」

東北民教研テーマ

北方性教育の伝統を継承し、国民教育の創造をめざそう
とき

2018年1月6日(土)~7日(日)

ところ

飯坂温泉 あづま荘
(福島市飯坂町中ノ内1-1 TEL 024-542-3381)

日程

- 7日 11:30~12:30 受付
12:30~13:00 開会行事
13:00~16:00 講演&パネルディスカッション
- 16:20~18:40 分科会
19:00~21:00 夕食&交流会
- 8日 8:30~10:30 分科会
10:40~ 閉会行事

◎講演&パネルディスカッション

- 子安 潤さん (中部大学教授)
演題 「スタンダード化する教育に立ち向かう」
- 現場からの報告者
 - ・県内の保育園保育士
 - ・県内の小学校教師
 - ・県内の中学校教師

※13分科会が準備されています。

※参加申し込みは各自でお願いします。

※問い合わせは遠藤慎一さんまでお願いします。

(TEL 0244-46-5882)